

航空・車部品、強み生かし参入

自動車や航空機部品の技術が生きる



アトツの無人機「UCHI」DAがダクトドファンなど外装の多くを手がけた

複合材加工やセンサー応用

「空飛ぶクルマ」の実用化に向けて、センサー開発や複合材加工技術を生かして参入する企業が相次いでいる。特に、自動車や航空機部品の技術を生かして参入する企業は多い。空飛ぶクルマは、従来の飛行機とは異なり、垂直に離着陸できる。そのため、従来の飛行機にはなかったような、垂直に離着陸するための技術が必要になる。また、空飛ぶクルマは、従来の飛行機よりも小型で、機体構造もシンプルである。そのため、複合材加工やセンサー応用などの技術が求められる。また、空飛ぶクルマは、従来の飛行機よりも小型で、機体構造もシンプルである。そのため、複合材加工やセンサー応用などの技術が求められる。

空飛ぶクルマ

空飛ぶクルマは、従来の飛行機とは異なり、垂直に離着陸できる。そのため、従来の飛行機にはなかったような、垂直に離着陸するための技術が必要になる。また、空飛ぶクルマは、従来の飛行機よりも小型で、機体構造もシンプルである。そのため、複合材加工やセンサー応用などの技術が求められる。

2021年1月1日付 日経産業新聞より

空飛ぶクルマ 広がる翼

空飛ぶクルマはグローバルな競争時代に入った

<p>トピック・特徴</p> <p>広東省に量産工場を建設。世界8カ国、39都市で試験飛行</p> <p>●実用化時期 商用化済み</p> <p>●乗車人数 1~2人</p>	<p>スカイドライブ</p> <p>トヨタ出身者が設立。21年は2人乗り機体を設計・開発</p> <p>●23年 ●1~2人</p>
<p>小鹏汽車</p> <p>EVメーカーとして参入</p> <p>●23~25年 ●1人~</p>	<p>テトラ・アビエーション</p> <p>米国での国際コンテストで入賞。理工大の技術者らが参画</p> <p>●23年 ●1人</p>
<p>ジョビー・アビエーション</p> <p>ウーバーテクノロジーズの事業部門を12月に買収。トヨタが出資</p> <p>●23年にも ●5人乗り</p>	<p>ボーイング</p> <p>17年に米スタートアップを買収。独ボルシェと開発中</p> <p>●非開示 ●2人乗り</p>
<p>リリウム</p> <p>米国に発着場を建設予定。テンセン</p>	<p>ホロコプター</p> <p>シンガポールで観光客向けの運行</p>

安全確保・航続距離がカギ

新常態の制空権競う先陣

国内、災害対応を視野

テトラ・アビエーション 中井佑代表に聞く



「空飛ぶクルマ」を開発するテトラ・アビエーション(東京・文京区)の代表取締役社長の中井佑氏に、同社の中井佑代表に実用化への道筋や開拓中の機体の特徴を聞いた。一問一答は次の通り。

23年ごろメド実用化

「空飛ぶクルマ」を開発するテトラ・アビエーション(東京・文京区)の代表取締役社長の中井佑氏に、同社の中井佑代表に実用化への道筋や開拓中の機体の特徴を聞いた。一問一答は次の通り。

「2025年ごろに量産化の準備を整えること」を目標に、23年ごろには実用化した。開発中の機体「Mk15」は、垂直に離着陸できる。そのため、従来の飛行機にはなかったような、垂直に離着陸するための技術が必要になる。また、空飛ぶクルマは、従来の飛行機よりも小型で、機体構造もシンプルである。そのため、複合材加工やセンサー応用などの技術が求められる。

